

リンガルブラケット矯正法について

— 基礎編 —

名古屋矯正歯科診療所 佐奈正敏

リンガルブラケット矯正法は1976年に藤田欣也先生が開発されて以来現在40年余が経過しています。その間、先人達により治験例が積み重ねられると共にメカニズムの解明や材料の進歩によって目覚しく発展してきました。一方で、ラビアル矯正と比較すると、依然として歯の配列が不十分であったり、トルクに代表される歯軸のコントロール不足や治療期間の長期化が指摘されています。リンガル矯正では口腔衛生管理が困難であることや、装置装着初期の発音の難しさ等、どうしても避けられない問題はいくつか存在するものの、装置に対する正しい理解と、適切なメカニクスを構築することで解決できる問題も多いと考えられます。そこで本日は、

- 1) 正確なレベリング
- 2) 効果的な歯軸のコントロール
- 3) リンガル特有のフィニッシング

に焦点をしばってバイオメカニクスの観点と臨床例から、それぞれの対応方法についてお話させていただきたいと思います。皆様の明日からの臨床に少しでも役立つ部分があれば幸いです。

<略歴>

- 1991年 3月 愛知学院大学歯学部卒業
- 2001年 1月～ 名古屋矯正歯科診療所 院長
- 2006年 4月 愛知学院大学歯学部 学位（歯学）取得
- 2007年 1月～ 愛知学院大学歯学部歯科矯正学講座 非常勤講師
- 2013～2014年 日本舌側矯正歯科学会 会長
- 2015～ 日本舌側矯正歯科学会 常務理事

<所属学会>

- 日本矯正歯科学会 認定医，専門医
- 日本成人矯正歯科学会 認定医，専門医

日本舌側矯正歯科学会 認定医

Board Member of World Board of Lingual Orthodontics (WBLO)

Active member and Titular member of European Society of Lingual Orthodontics (ESLO) Best 5case presentation(London)

Active member of World Society of Lingual Orthodontics (WSLO)

Member of World Federation of Orthodontists (WFO)